

関西女性活躍マップ「仕事編」 令和5年度更新の前後の比較（説明資料）

関西女性活躍マップ「仕事編」において、令和4年（2022年）就業構造基本調査を反映し、更新前後を比較したところ、主な特徴として以下が挙げられる。

なお、就業構造基本調査の実施主体である総務省統計局によると、「2022年（令和4年）10月1日現在の15歳以上人口について、就業状態別にみると、有業者は6706万人、無業者は4313万人となっており、5年前に比べ、有業者は85万人の増加、無業者は163万人の減少となっている。有業者について、男女別にみると、男性は3671万人、女性は3035万人となっており、5年前に比べ、男性は37万人の減少、女性は122万人の増加となっている。」※1とのこと。

<更新前後の比較による主な特徴>

（1）関西女性活躍マップ「仕事編」について

・いずれの府県においても、各府県別分析シートにおけるグループの変更は見られなかった。

（2）参考（関西女性活躍マップに掲載されていない情報を含む）

① 女性の正規雇用比率について

・全国・関西広域連合※2ともに、平成29年（2017年）調査時よりも、女性の正規雇用比率が増加している。

<女性の正規雇用比率> (単位：%)

	2017年	2022年	増減
全国	43.4	46.8	3.4
関西広域連合	43.2	45.5	2.3

② 男性の正規雇用比率について

・男性の正規雇用比率は、平成29年（2017年）調査時と比較すると、全国では増加しているものの、関西広域連合では減少している。

<男性の正規雇用比率> (単位：%)

	2017年	2022年	増減
全国	77.7	77.9	0.2
関西広域連合	77.2	76.9	-0.3

③ 正規雇用比率の男女差（女性－男性）について

・全国・関西広域連合ともに、平成29年（2017年）調査時よりも、正規雇用比率の男女差が縮小している。

<正規雇用比率の男女差(女性－男性)> (単位：%)

	2017年	2022年	増減
全国	-34.4	-31.1	3.3
関西広域連合	-34.0	-31.4	2.6

※1 令和5年7月21日公表「令和4年就業構造基本調査結果の概要」より抜粋

※2 「関西広域連合」：関西広域連合構成府県の各数値の単純平均で算出